

六小・富士便り

開校55周年

国立市立国立第六小学校

校長室便りNo.18 令和8年(2026年)3月10日

令和7年度、最後の月、3月です。

弥生、3月となり、今年度の最後の月を迎え、各学年とも学年のまとめに頑張っています。この令和7年度は、私にとって、第六小学校の校長としての新たなスタートとなったと同時に、新たな出会いと共に新たな学校創りを目指す、とてもやり甲斐のある1年となりました。



第六小の子供たちとの出会い。共に学校運営を行う教職員との出会い。

そして、保護者の方々や地域の方々との様々な課題に向かって協働するための出会いと取組。

同じ市内であっても前任校の第七小とは様々に違いがあり、全てをしっかりと見極めたり、見通しをもったりするための1年となりました。更に付け加えるとすると、校長職として最後に勤める学校がこの国立第六小学校だと思えます。この学校で勤められる限り、頑張っまいます。

子供たちや教職員、保護者の皆様、地域の皆様には、これからも、私が校長職として勤めることができる最後の時まで、どうぞ、引き続きよろしく願いいたします。

令和8年度の教育課程から(その2)

校長室便り NO.16に、「令和8年度の教育課程から」と題して、来年度の変更点等をお伝えしました。今回は、その2としてお伝えいたします。

◎年間の生活指導目標を設定します。

これまでは、月ごとに生活指導目標を設定し、子供たちや教職員の学校全体で意識し、取り組んでまいりました。来年度以降からは、月ごとの生活指導目標と共に、年間の生活指導目標を定め、一年間継続して取り組んでいくこととしました。

以下の2点を重点として取り組んでまいります。

*相手に届く声での挨拶・・・朝の登校時の挨拶の様子から、挨拶ができている子どもがいる反面、会釈をして意思表示することや声を出して挨拶することが苦手な様子が見られます。挨拶運動週間等の時だけでなく、日頃の挨拶の習慣として身に付けてほしいと願い、取り組んでまいります。目指すゴールとしては、廊下等の校舎内での挨拶もできるようになってほしいと思えます。

*相手を意識した言葉遣い・・・小学校では、相手を傷つけたり、嫌な思いや悲しい思い等をさせたりする言葉などを「チクチク言葉」と言います。また、相手を楽しくさせたり嬉しくさせたり、気持ちよくさせたりする言葉などを「ふわふわ言葉」と表現しています。学習活動や行事での活動等の学校生活全般を通して、これまで以上に相手を意識した言葉遣いができるよう、ふわふわ言葉の定着に挑戦したいと思えます。

◎来年度の展覧会当日は、午前授業(授業公開は無し)を行います。

前回の展覧会は、子供たちの授業は行わず、展覧会のみで開催となっておりました。来年度においては、土曜授業日として午前授業を行います。授業公開は行いませんが、展覧会と連動した形で、子供たちの学習活動を行ってまいります。

◎授業等の学習活動をよりよくしていきます。

この1年間、子供たちの学習活動の様子や教員の授業観察を通して、学習状況を見てまいりました。その中から、学習活動において、重点的に取り組むことで、よりよくできる点を以下のように考えました。来年度の教育課程に反映させましたので、ご確認ください。

*各教科の授業時に復習や反復学習を5分程度設定します。

前学年までで学んだことを復習し、定着させていきます。

*授業時の子供の学習活動の時間を多く設定します。

できる限り子供の出番が多い授業や学習活動を行います。

*発言や説明ができる場を与え、間違いを恐れずに答えられるようにしていきます。

間違いを恐れない、また、お互いの頑張りを認め合える教室でありたいと思います。

*自分の考えの元(根拠)はどこにあるのかを大切に学習をします。

思いや考えには、根拠となるものごとがあるはずで、それをはっきりさせて発言したり、発表したりできるような学習活動を行います。

*授業時の児童の声について、声の大きさやはっきりとした言葉で発表したり、発言したりするなどの指導や学習活動を進めます。

音読を大切に、声の大きさやはっきりとした言葉で発表したり、発言したりするなどの指導や学習活動を進めます。

以上のような、生活指導や学校行事、授業改善に向けた取組等を行い、楽しく活発な教育活動が行えるよう、これまでよりも更に力を入れていきます。これまでお知らせした教育課程の取組以外にも、様々に設定しておりますが、来年度の校長室便り等で適宜、お知らせしてまいります。ご理解の程、よろしくお願いいたします。



【校長のつぶやき】

教員生活の中で、担任や専科教員として、子供たちと直接的に教育活動を行ったのは、19年ほどでしたが、その時に大切にしたいことの1つは、子供たちが心に思ったことを素直に言える学習環境や教室環境にすることでした。

特に、学級崩壊の後を受けもった時には、子供たちの「変わりたい」「よくなりたい」等、素直に心に思っていることが出せずいたこと(多くの場合の原因)を、よく聞き、受け止め、子供たちが変わるため、良くなるために必要なことは何か、を伝えることから始めました。

その一つに、授業や学習活動が中心の学校生活の中で、教室は間違っていていいところだという、安心できる気持ちが出てくるようにしました。

授業の中で、考える時間を与える時には、「思ったことは全て発言してよいこと」、「発言したことは、みんなで考えてみること」、「間違っていることは、大切なことであり、自分たちの大切な学びになること」、「間違っていて笑わないこと」、などなど。その時々で、子供たちに伝えたり、教えたりしながら、学習環境を整えていきました。

また、声の出し方についても、声の大きさやはっきりとした言葉を伝えて、実践的に教えることもしました。このような取組が積み重なっていくことで、子供たちは、少しずつ変化をはじめ、一人一人が自信をもち始めるようになりました。その経験は、現在の私の大切な土台であり、宝物となっています。